

## 主な受賞者の紹介

### 1 創意工夫ある教育活動により、顕著な成果をあげた者

#### ○犬山市立楽田小学校 教諭 酒井 俊輔 (名簿番号 8) 【教職員表彰】

E S Dの理念を組み入れた総合的な学習の時間の実践を積み重ね、犬山市E S D研修会で授業を公開した。「世界が幸せになるために」をテーマに、世界の様々な問題を解決ランキング形式で考えさせ、意見が違う立場で議論する中で、自分の考えに根拠をもって話し合う児童を育成した。また、5年間積み上げた実践の成果を愛知県青少年赤十字加盟校発表交換会、東海ブロック国際理解教育研究大会で発表し、高い評価を得た。



「児童の意見に耳を傾ける酒井教諭」

また、2017年度には、愛知県ユネスコスクール交流会の全体会のファシリテーターとして、発表校への講評や全体ディスカッションの進行を務めた。

現在は、SDGsの理念を組み入れ、総合的な学習の時間を全面的に見直し、教科横断的な視点で年間カリキュラムの編成を行っている。また、教務主任としてその職責を全うし、中心的存在として活躍している。

#### ○大治町立大治小学校 教諭 峯村 美帆子 (名簿番号 20) 【教職員表彰】



「タブレットを活用した実践をする峯村教諭」

自ら学ぶ意欲が高く、先見性、実行力は、他の教職員の模範となっており、信頼も厚い。2020年度から2年間研究主任として、ICT機器を効果的に活用した協働的な学びの推進に尽力し、実践内容を発表冊子にまとめるなど、海部地区全体に成果を広めた。特に、ロイロノートを活用して、短時間で課題を提示したり、児童の考えを瞬時に把握したりすることは、一人一人の学びを深めるた

めに有効であると実証した。

また、タブレットの付箋機能や学習の記録を蓄積できるアプリケーションを活用することで、多面的・多角的な児童の考えが活発に交流される授業を展開し、自他を認め、生き生きと学び続ける児童の育成につなげることができた。

学校の研究部員であるミドルリーダーをとりまとめ、広い視野に立った助言で、校内研修の中心として活躍するとともに、研究の手立ての有効性や校内研修の活性化に関する内容については広く全国にも発信している。

○愛知県立豊田南高等学校 教諭 <sup>なかしま</sup> 中島 <sup>こうへい</sup> 浩平 (名簿番号 83)

【教職員表彰】

明るく誠実な人柄であり、教育への信念と情熱を持ち何事にも率先して自ら取り組む姿は、学校に活気を与え、同僚、生徒及び保護者からも厚い信頼を得ている。

英語科の教員として、指導法の改善に熱心に取り組み、特にICTを活用した授業方法や教材の開発に尽力し、本校の英語科教員の授業改善に寄与している。

2019年からマイクロソフト認定教育者として、

本校の生徒と世界中の教育者や生徒たちの交流を多岐にわたって行い、授業に貢献している。その結果、本校生徒の英語に対する興味・関心が非常に強くなっている。その成果が、多くのメディアに取り上げられ、本校の魅力ある学校創りにも貢献している。

また、本県におけるICT授業活用に関する研究にも尽力し、英語教育の改革の第一人者として、その取組が高い評価を得て、本校のみならず、様々な研究協議会の講師としても活躍している。



「世界中の生徒との交流を指導する中島教諭」

2 使命感を持って教育活動の改善に取り組み、信頼が厚い者

○豊橋市立豊城中学校 教諭 <sup>おさき</sup> 尾崎 <sup>ことみ</sup> 琴美 (名簿番号 65)

【教職員表彰】



「既習事項で生徒と会話する尾崎教諭」

日本人若手英語教員米国派遣事業、英語教育推進リーダー中央研修、教職大学院での研究など、多くの経験を通して研鑽を積み、卓越した教科指導力を身につけてきた。グローバル社会を生きる生徒個々のコミュニケーション力の向上を目ざし、「Can-doリスト」形式の学習到達目標をもとにした授業実践を積み上げたり、生徒の知的好奇心を揺さぶる教材開発を続けたりしている。このような

経験や自らの授業実践をもとに、豊橋市はもとより東三河地区の英語教員に向けて、英語教育講座の講師を務めたり、伝達講習を行ったりしている。

「生徒を誰一人として取り残さない」という確固たる信念の下、教育に対する強い情熱をもって日々の教育活動をすすめている。また、温かで豊かな人間性も兼ね備えているため、生徒だけでなく、保護者や教職員からも厚い信頼が寄せられている人物である。

○愛知県立稲沢高等学校 教諭 <sup>たかはし</sup>高橋 <sup>りゅう</sup>龍 (名簿番号 78)  
【若手教職員等奨励賞】

常に明るく謙虚で、何事にも前向きに取り組み、感謝の気持ちを持って人と接するため、周囲からの信頼は絶大である。時代の変化に柔軟に対応し、常に新しい視点で企画する力があり、周囲を納得させ協力体制を築く力に長けている。後輩職員の育成にも積極的に取り組み、任せて育てる姿勢も模範的である。



「新校の広報活動に取り組む高橋教諭」

来年度開校の新校立ち上げ準備の中心人物として、積極的に広報活動を行ってきた。わずか2年間の短い準備期間にもかかわらず順調に進めることができてきているのは、本人の意欲と人柄ゆえである。また、生徒指導主事として、時代の流れに合わせて指導體制を見直し、叱る指導から褒める指導への転換を試みてきた。柔道部顧問としても粘り強く個に寄り添った指導を続け、本校初の団体県大会出場に導くなど、本校教育活動の中心的存在として貢献度が高い。

○愛知県立三好特別支援学校 教諭 <sup>いのうえ</sup>井上 <sup>わたる</sup>亘 (名簿番号 96)  
【教職員表彰】



「障害者雇用の理解を広める井上教諭」

進路指導主事として、地域の福祉関係者や企業の担当者に対し謙虚な姿勢で接し、良好な関係を築いている。本校の進路説明会を居住地区ごとで開催する「市町と共催で行う進路説明会」では、福祉関係者との連携・協力のもと、保護者に対して各地区の情報提供を行い、関係機関と家庭をつなぐ取組として成果をあげている。また、障害者雇用への理解の促進として、企業を対象に「学校公開」を計画し実施した。特別支援学校で生徒が学んでいる内容や、生徒の特性への理解、会社に期待することなどを伝え、障害のある生徒の就労に対して理解を広めている。進路に関する情報を豊富にもっていることから、相談する教職員も多く、本職員の周りには常に人が集まっている。丁寧な聞き取りと的確な助言は安心感があり、校内外を問わず厚い信頼を得ている。

○岡崎市立竜海中学校 主査 <sup>おやま</sup> 尾山 <sup>かよこ</sup> 香淑子 (名簿番号 103)

【教職員表彰】

落ち着いたある丁寧な仕事ぶりから、本務校職員や他校事務職員から大変信頼されている。共同学校事務室のブロックでは、2019年度から4年間、副室長として室長と協力し、室員の指導育成に尽力している。

また、2019年度と2022年度には、岡崎市教育委員会主催の岡崎市新規採用事務職員研修における「人事内申事務」に関する講師を、2020年度には、主事を対象とした学校事務職員スキルアップ研修における講師を務め、新規採用事務職員や若手事務職員の育成に尽力している。

2015年度から2021年度は、西三河公立小中学校事務職員研究会の会計・書記として市内の学校事務職員だけでなく、西三河の学校事務職員の資質向上のために研修会や学校事務研究会、愛知県公立小中学校事務職員研究会の分科会発表の運営に携わり、2022年度から愛知県公立小中学校事務職員研究会の会計として愛知県の学校事務職員の資質向上のために更に尽力している。



「同僚主事に助言する尾山主査」

3 地道な教育活動を継続して行い、他の模範となる者

○美浜町立野間中学校 教諭 <sup>きたがわ</sup> 北川 <sup>あきつぐ</sup> 晶嗣 (名簿番号 53)

【教職員表彰】



「支援についての助言をする北川教諭」

常に謙虚な姿勢で接し、周囲からの人望も厚い。相談には丁寧に対応し、教職員をつなぐパイプ役として、組織の中の重要な役割を果たしている。担当する社会科においては、生徒一人一人に寄り添った支援を心がけ、丁寧で粘り強い指導を続けている。校務主任としての学校運営への貢献も大きい。

特別支援教育コーディネーターとして、特別支援学級担任との情報共有に努め、的確なアドバイスを行うことで、特別支援学級担任の少経験者が自信をもって支援を行い、生徒の落ち着いた生活につながっている。また、通級指導教室担当教員との情報交換を積極的に行い、校内における支援対象生徒の把握に努めている。

これまでに、知多地方教育研究会道德部会や社会研究部中学校部会での研究推進、常滑市教科指導員として特別支援学級担任の少経験者への助言など、幅広く活躍している。

○愛知県立岡崎聾学校 養護教諭  
【教職員表彰】

しばた まり  
柴田 麻里 (名簿番号 92)

養護教諭として、幼児児童生徒の心身の健康や安全のために、強い信念と熱意をもって健康・安全指導、保健指導に取り組んでいる。教職員や学校医等と連携し適切な対応を取ることができるため、保護者や教職員からの信頼も厚い。

2020年度より保健室を「本校の相談窓口」と位置づけ、幼児児童生徒の悩みを丁寧に聞き取り、真摯に向き合っている姿は他の教職員

の模範となっている。また、2015年度から7年間「衛生管理者」を務め、教職員の職場環境の充実のために尽力してきた。安全衛生委員会からの提案で、昨年度から毎週木曜日を定時退校日とするなど、本校の働き方改革にも貢献している。

幼児児童生徒、教職員、保護者の心のよりどころとして、大きな役割を担い続けている。



「体温測定をする柴田養護教諭」